

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1. 調査目的

政府は2015年11月27日に「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」（以下、オリパラ基本方針）を閣議決定し、大会の円滑な準備と運営はもとより、大会を契機とした様々な取組みを通じて、オールジャパンでの日本の魅力発信、外国人旅行者の訪日促進等を行い、被災地復興の後押しや地方活性化につなげることを推進している。

本調査では、オリパラ基本方針推進にあたっての重点分野である「文化を通じた盛り上げ」にかかる試行プロジェクトを実施し、特に、日本文化の国内外への発信、普及のバリアを解消するための取組みである多言語対応、バリアフリー対応、国際標準化・国際規格化対応のいずれかを促進するための取組みを含むプロジェクトについて、その効果・改善点を調査・分析することで、オリパラムーブメントを醸成し、もって基本方針を推進することを目的とする。

### 2. 試行プロジェクトの応募対象

#### (1) 試行プロジェクトの公募

本事業は公募により広く企画の提出を求める「企画競争」として試行プロジェクトの提案を募集し、所定の選定手続きを経て、対象の試行プロジェクトを選定した後、当該プロジェクトの提案団体（提案団体の中に複数の構成団体が含まれる場合は、提案団体の代表団体）と委託契約を締結し、国による調査として実施した。

#### (2) 応募主体

次のいずれかに該当するもの。

- ① 法人格を有する者
- ② 法人格を有しない団体で、以下の要件を満たし、団体を構成するいずれかの法人が契約主体となることができる者
  - ・ 定款、寄附行為に類する規約を有すること
  - ・ 団体の意思を決定し、執行する体制が確立していること
  - ・ 自ら経理し、監査する会計体制を有すること
  - ・ 活動の本拠となる事務所等を有すること
- ③ 地方公共団体（都道府県、市町村（特別区、一部事務組合および広域連合を含む）

### (3) 応募対象プロジェクト

2020年東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会への関心を高め、日本文化の魅力を発信するプロジェクトの中で、各種のバリアを克服する取組みを含むもの（外国人への言語のバリアを取り払う多言語対応、障害者・高齢者等の参加を促進するバリアフリー対応、和食・日本食材などの海外普及を促進するための国際標準化や国際規格化への対応のいずれかを含むプロジェクト）を対象とする。ただし、国内で実施するものに限る。

### (4) 公募期間

- 一次：2016年5月24日（火）から6月10日（金）
- 二次：2016年5月24日（火）から7月11日（月）
- 三次：2016年11月1日（火）から11月16日（水）

### (5) 応募要件

以下の内容を企画提案に含むこと。

- ① オリパラ大会への関心を高め、オリパラ大会成功に向けた機運を醸成するため、質の高い日本文化の普及・魅力発信の内容が提案事項に含まれていること。
- ② 日本文化の国内外での普及・魅力発信のため、多言語対応、バリアフリー対応、国際標準化・規格化対応のいずれかを促進する取組みとその効果検証が提案事項に含まれていること。
- ③ プロジェクトの実施を通じて次世代に残すべき遺産（レガシー）を提示していること。
- ④ 2020年東京オリパラ大会に向けて何を実現するのか、2020年東京オリパラ大会開催年に何を実施するのか、2020年東京オリパラ大会以降何につなげていくかが含まれた実施計画を提示すること。
- ⑤ 以下のプロジェクトイメージを参考に、事業企画の背景と課題を提示すること。その課題に対応した実証事業として、課題の抽出や成果等の効果検証の手法を提示すること。

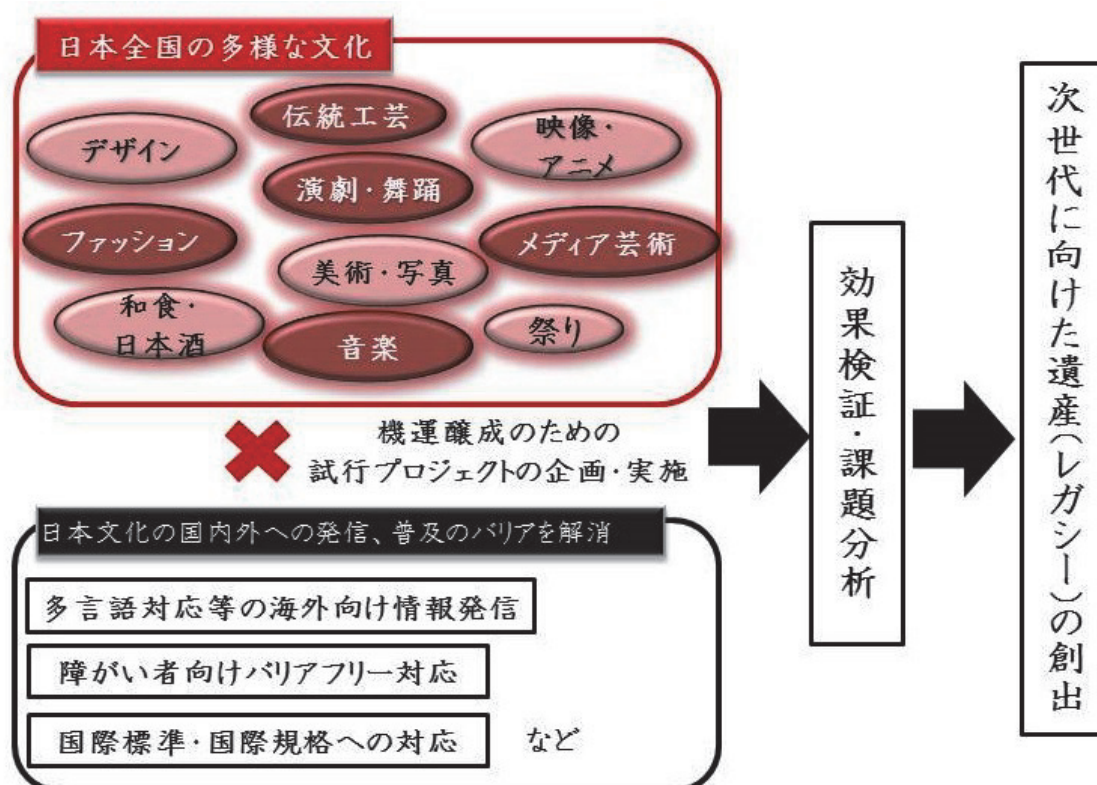
### (6) 試行プロジェクトのイメージ（例）

2020年東京オリパラ大会に向けて、そして、その先を見据えて、質の高い日本文化の国内外への普及・魅力発信を進める事業・イベントであって、

- 海外に向けた情報発信や訪日外国人受入れ促進のための多言語対応を行い、外国人の日本文化への理解を促進させるもの
- 障がい者にとってのバリアを取り除き、新たな鑑賞の機会を創出したり文化活動への参画機会を拡大させたりするもの

- 障がい者がその個性・才能をいかした芸術活動を推進するプロジェクトや、共生社会の実現に向けた多様性に関する理解を促進するもの
- 和食・国産食材等の海外発信に向けて、必要な国際標準対応・国際規格対応の課題と解決策を提示し、認証取得につながる取組み等を行うもの

試行プロジェクトの実施イメージ図



(7) 実施期間

契約締結日から 2017 年 2 月 28 日（報告完了）まで

(8) 委託金額

1 件あたり最大 1,000 万円（消費税を含む）

(9) 審査・選定プロセス

次の審査基準（※1）をもとに、有識者からなる審査委員会（※2）を経て採択案件を決定する。

※1：審査基準

1	本公募事業の目的との整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリパラ大会の開催に向けた機運醸成につながる、優れた日本文化の普及・魅力発信を行う内容であるか。</li> <li>日本文化の国内外での普及・魅力発信の障壁を取り除くため、多言語対応、バリアフリー対応、国際標準化・国際規格化対応のいずれかを促進する内容を含むものとなっているか。</li> </ul>
2	プロジェクト内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組み内容、効果検証方法が具体的でスケジュールも明確になっており、実効性があるか。</li> <li>より多くの人々が参加可能な取組みとなっているか。</li> </ul>
3	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトで実施される多言語対応、バリアフリー対応、国際標準化・国際規格化対応を通じて、日本文化の国内外での普及・魅力発信の促進につながる課題抽出、効果検証が具体的に行われる内容となっているか。</li> <li>プロジェクトによって得られる効果・規模が申請金額に見合っているか。</li> </ul>
4	持続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリパラ大会に向けて何を実現するのか、2020年東京オリパラ大会開催年に何を実施するのか、2020年東京オリパラ大会以降何につなげていくかが明確であるか。</li> <li>新しい人材の発掘や育成につながるなど、取組みの持続性が見込まれる取組みがなされているか。</li> </ul>
5	実現性	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務・事務管理能力、その他プロジェクトを実施するための体制が組まれているか。</li> <li>本公募プロジェクトを円滑に実施するための強み（実績、ノウハウ、人的ネットワーク等）が記載されているか。</li> </ul>

※2：オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査試行プロジェクト審査会委員

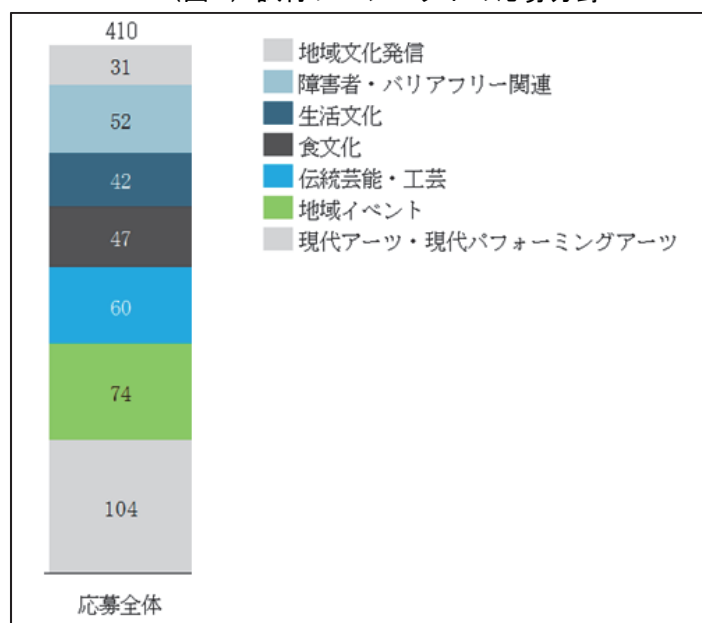
青柳 正規（委員長）	東京大学名誉教授（前文化庁長官）
朝原 宣治	大阪ガス株式会社 近畿圏部地域活力創造チームマネジャー 北京オリンピック銅メダリスト
生駒 芳子	ファッションジャーナリスト
小山 薫堂	放送作家、脚本家
田口 亜希	アテネ・北京・ロンドンパラリンピック射撃日本代表 日本パラリンピアンズ協会理事 日本郵船株式会社人事グループ 社会貢献推進チーム
谷川 じゅんじ	スペースコンポーザー、JTQ代表
蛭川 実花	写真家、映画監督
横澤 大輔	株式会社ダウンゴ 取締役 COO ニコニコ超会議統括プロデューサー 一般社団法人日本ネットクリエイター協会代表理事

### 3. 試行プロジェクトの応募状況

#### (1) 概観

試行プロジェクトの応募は、全体で 410 件（一次 71 件、二次 309 件、三次 30 件）であった。分野別にみると、現代アート・現代パフォーマンスアートが 104 件で最も多く、次いで地域イベント（74 件）、伝統芸能・工芸（60 件）、食文化（47 件）等という順である（図 1 参照）。

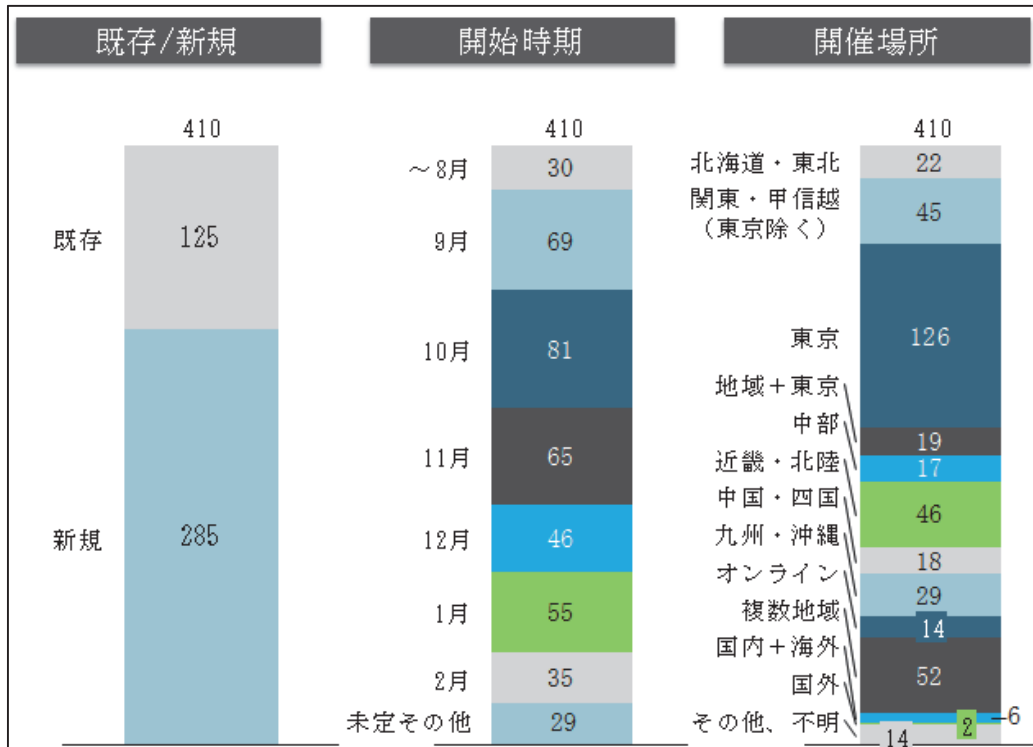
(図 1) 試行プロジェクトの応募分野



#### (2) 応募案件の分類

応募案件 410 件の中では、本事業のために新たに企画されたものが 285 件と多く、新規案件が中心であった。開催場所は東京が 126 件で最も多かったものの、地方案件や複数地域による実施、またオンラインを利用したものなどがあり、多岐にわたっている（図 2 参照）。

(図2) 応募案件の分類



#### 4. 試行プロジェクトの採択状況

##### (1) 概観

応募案件 410 件のうち、有識者委員会による評価・審査を経て、最終的に 32 件が採択された（表 1 参照）。公募段階では 2016 年夏季に実施予定の企画を一次採択対象、それ以降の実施分を二次採択対象とした。また、2017 年 1 月以降の実施分を三次採択対象として募集、採択した（採択回とプロジェクト実施時期に必ずしも対応関係はない）。

(表 1) 採択プロジェクト一覧

採択時期	事業名	実施主体
一次採択 (8 件)	大相撲国際文化交流イベント「大相撲 beyond2020 場所」	公益財団法人 日本相撲協会
	新作能「水の輪」beyond2020	公益財団法人 山本能楽堂
	第一回超人スポーツゲームズ	超人スポーツ協会(慶応大学)
	LIGHT UP NIPPON 全国一斉花火	一般社団法人 LIGHT UP NIPPON ((株) ハレ)
	風とロック芋煮会 2016 白河の関ステージ	(株) 福島民報社

	東京ハーヴェスト	東京ハーヴェスト実行委員会 ((株) オイシックス)
	共創社会実現のための舞台芸術プロジェクト	スロームーブメント実行委員会 ((株) ワコールアートセンター)
	東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者アートフェスタ 2016	鳥取県
二次採択 (19件)	THE JAPAN CONNECT プレイイベント	森ビル (株)
	番組企画 多彩にっぽん! まち・ひと・文化～日本各地のホストタウンへ、ようこそ!～	(株) ジュピターテレコム
	「“にぎわい” ルーツ・ジャパン」プロジェクト ～芸による町興しと情報発信を目指して～	公益社団法人落語芸術協会
	あたらしい工芸 -KOGEI Future forward-	(株) 三越伊勢丹ホールディングス
	流鏝馬に関する情報の海外発信および実況解説などの多言語化事業	公益社団法人大日本弓馬会
	和の心 ～雅楽&武道～	明治神宮
	いけばな JOIN プロジェクト	全国花き振興協議会 (一般社団法人 JFTD)
	レガシーの未来への継承” DRUM TAO を通じた地域コンテンツ魅力増進及び誘客・情報発信実証実験	竹田市
	KIMONO を活用した異文化相互理解促進プロジェクト	一般社団法人イマジンワンワールド
	Playable City Tokyo 2016: テクノロジーと創造性で新しい都市体験を創出する国際コラボレーションプログラム	(株) ライズマティクス
	日本の“まつり” Re-Design プロジェクト	(株) 電通国際情報サービス
	DENIM Run ONOMICHI -ファッションと地域文化による訪日対策事業	(株) せとうちホールディングス
	コンテンツ投稿サイト「カクヨム」を使った地域文化創造プロジェクト	(株) KADOKAWA
	日本を愛する世界的に著名な海外ファッションデザイナーによるプレゼンテーション	一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
	多様性社会を目指した御食国“常若”文化プロジェクト	鳥羽商工会議所
漫画家が提案する障がい者スポーツ・マンガの普及プロジェクト～「Be The HERO 2016」プロジェクト	一般社団法人融合研究所	
世界をリードする、日本の映画鑑賞用最新バリアフリー技術を活かした、多言語対応“おもてなし”プロジェクト	特定非営利活動法人バリアフリー映画研究会	

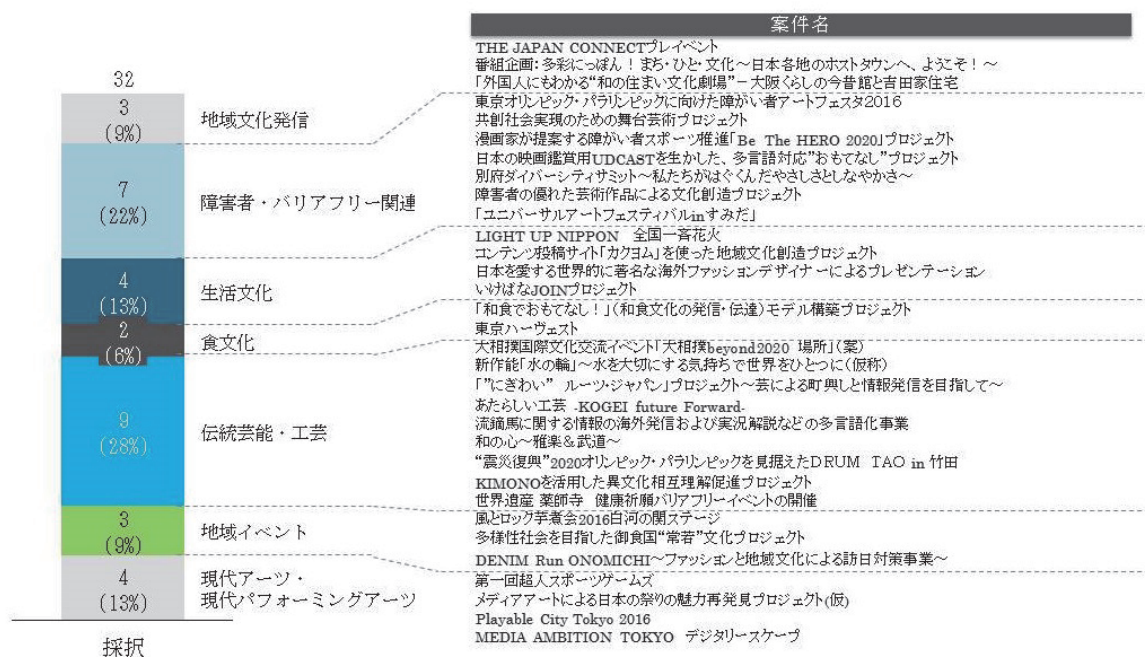
	別府ダイバーシティアカデミア～私たちが育んだやさしさとしなやかさ～	(株) JTB コーポレートセールス
	障がい者の優れた芸術作品による文化創造プロジェクト	社会福祉法人愛成会
三次採択 (5件)	世界遺産 薬師寺 健康祈願バリアフリーイベント	共栄印刷 (株)
	外国人にもわかる”和の住まい文化劇場” ー大阪くらしの今昔館と吉田家住宅で紡ぐ和の住まい文化 体感 to 共感ー	大阪市住宅供給公社
	和食文化の発信・伝達方法のモデル構築～多言語化を視野に～	一般社団法人和食文化国民会議
	MEDIA AMBITION TOKYO デジタリースケープ	公益財団法人画像情報教育振興協会
	誰もが楽しめる自由な芸術祭「ユニバーサルアートフェスティバル in すみだ」	(株) 中日新聞社

(注) 括弧内は契約主体

## (2) 採択案件の分野

採択された32件をプロジェクトの主な分野に基づき分類すると、図3のようになる。伝統芸能・工芸が9件で最も多く、全体の3割近くを占めた。このうち3件が1つのプログラムを国内複数箇所で開催し、広範囲な対象に向けて共通の体験の機会を提供するものであった。次いで障がい者・バリアフリー関連が7件(同22%)、現代アート・パフォーミングアーツと生活文化が4件(同6%)等という順である。

(図3) 採択案件の分野

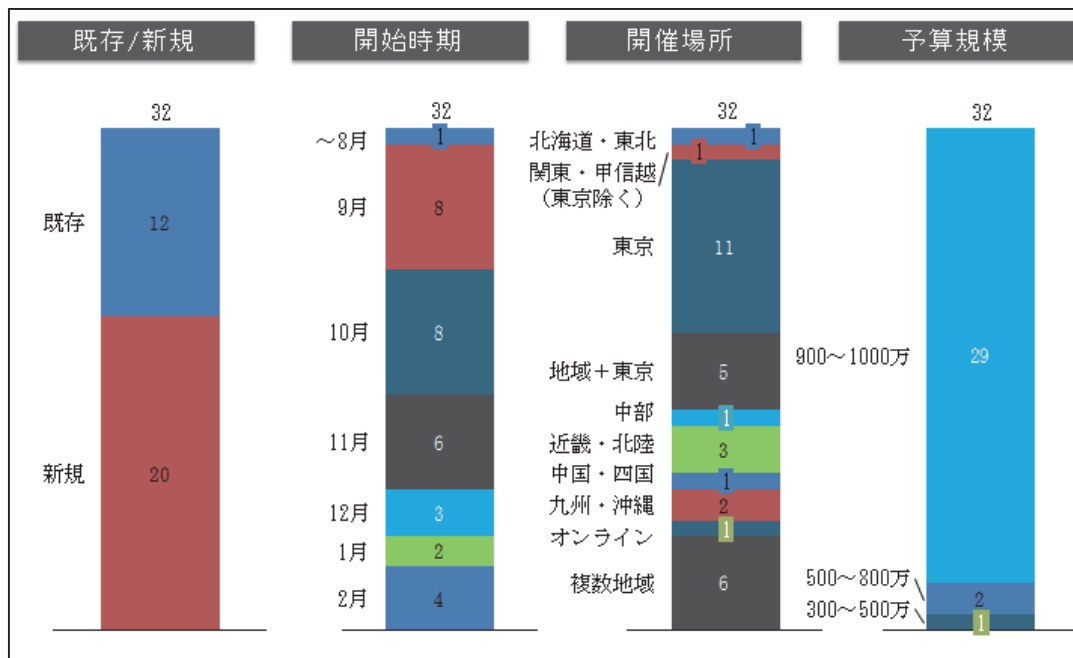




### (3) 採択案件の分類

採択案件 32 件のうち本事業のために新たに企画されたものは 20 件で、過半を占めた。開催場所は東京が 11 件で最も多かったが、地域の魅力発信やインバウンド促進を志向した地方案件も多数あり、本事業の趣旨である全国的な機運醸成につながったものと考えられる（図 4 参照）。

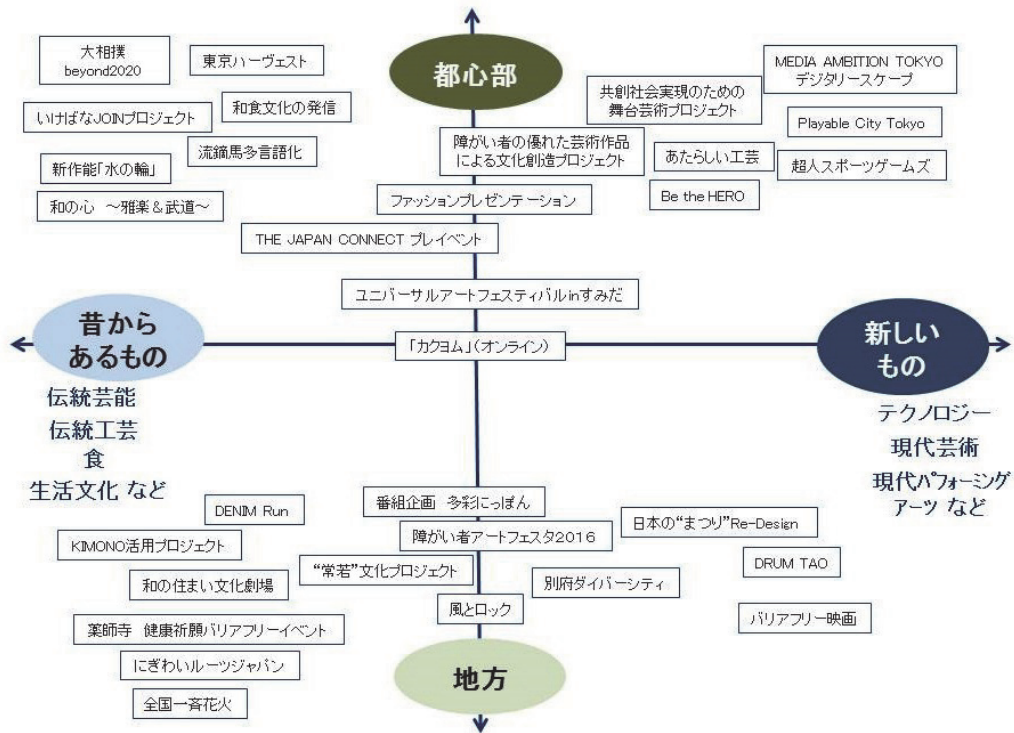
(図 4) 採択案件の分類



採択されたプロジェクトを①都心部と地方、②昔からあるもの（伝統芸能・工芸、食、生活文化等）と新しいもの（テクノロジー、現代芸術、現代アーツ・パフォーマンス等）という 2 つの側面に着目して分布したものが図 5 である。

全体的な傾向として、都心部では東京・大阪を中心に伝統文化、現代文化をテーマとする案件がバランスよく実施される一方で、地方では昔からある食文化や地域資源（文化財、観光施設等）の活用に焦点を当てた案件が目立った。

(図5) 採択案件の分布



(4) 採択案件の実施形態

採択案件の実施形態をみると、野外イベントが11件あり、全体の22.4%を占めた(1つのプロジェクトで複数の実施形態に該当するものもある)。次いでステージイベントと体験・参加型イベントが10件(同20.4%)、展示が7件(同14.3%)等という順であった(図6参照)。都市部の案件では実施形態が多様である一方、地方案件では野外イベントが中心という傾向がみられた。

(図6) 採択案件の実施形態

